

## 3級技能検定(職種:建築大工)に木造建築科訓練生が全員合格しました

青森県立むつ高等技術専門校の木造建築科では、6月より3級建築大工(大工工事作業)検定試験課題の練習に取り組み、途中諦めそうになる訓練生もいましたが、クラスメイト同士が協力しながら教えたり教わったりして、7月11日(日)の学科試験、同月29日(木)の実技試験を経て、8月27日(金)の合格発表では見事に全員が合格することができました。



技能検定とは、働くうえで身につける、または必要とされる技能の習得レベルを評価する国家検定制度で、機械加工、建築大工やファイナンシャル・プランニングなど全部で130職種の試験があります。試験に合格すると合格証書が交付され、「技能士」と名乗ることができます。



なお、3級技能検定は、専門高校や職業訓練校などで技能を学ぶ学生や訓練生の技能修得意欲を増進させ、技能及び職業に関する教育訓練の成果に対する社会一般の評価を高めることを目的とした試験です。



また、昨年度の7月に実施される令和2年度前期の技能検定が新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い中止となったことから、2年生は令和2年度の後期に実施された技能検定では、技能五輪全国大会青森県予選で2級実試験を受検し、実技試験ではほぼ全員が合格することができ、9月27日(月)に10名の訓練生一人ひとりの名前が担任から読み上げられ、工藤校長から3級技能検定の合格証書が手渡されました。



その後、2年生の訓練生からは「2級技能検定の実技試験は試験時間も長く、難しい課題をクリアできたので、2月の学科試験にも合格できるよう勉強していきたいです」、1年生の訓練生は「年明けの2級技能検定に向けて、学科試験と実技試験に1回で合格できるよう努力していきたいです」など、技能検定受検に関する感想や今後の抱負が発表されました。

今回、検定試験に合格した10名の訓練生は、年明けの2月には、2級技能検定試験の学科試験や実技試験を受検することになるので、全員がそろって合格できるように受検対策をしてほしいと思います。